

第46回 鳥類内分泌研究会 公開講演会（ハイブリッド開催）

日本鶏（にほんけい）
— 観賞・研究・食 —



都築 政起 先生

広島大学 大学院統合生命科学研究科

広島大学 日本鶏資源開発プロジェクト研究センター

2022年12月10日（土曜日）16：00～17：00

オンライン：Zoom会議システム

現地参加：広島大学東広島キャンパス 総合科学部第一会議室

事前参加申込必要：×切12月5日（月）・参加費無料

この度、都築先生に第46回 鳥類内分泌研究会にて特別講演を行っていただくこととなりました。本講演は、研究会参加者だけではなく、鶏に興味のある一般の方々、鳥類研究者以外の教育・研究者のご参加を期待し、公開講演会にしております。オンライン参加申込者には前日までにZoom会議情報をお知らせします。

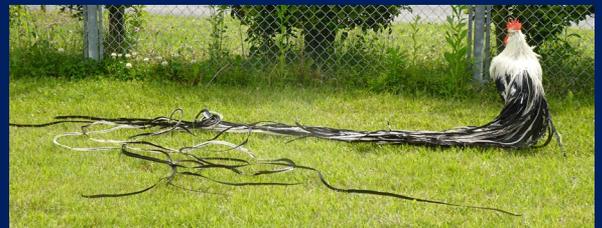
参加申込フォーム <https://forms.gle/LsjtHrhGa5SHSJ38A>

（鳥類内分泌研究会参加登録者は本申込は不要です）



世話人：浮穴和義（広島大学 大学院統合生命科学研究科）

お問合せ ukena@hiroshima-u.ac.jp



公開講演会・要旨

日本鶏（にほんけい） — 観賞・研究・食 —

都築 政起

広島大学 大学院統合生命科学研究科
広島大学 日本鶏資源開発プロジェクト研究センター

みなさま、こんにちは。演者は家畜の遺伝育種学が専門であり、内分泌学に関しては門外漢ですが、第46回鳥類内分泌研究会世話人の浮穴和義教授のご厚意で、「内分泌と特に関係なくて良いので」とお声がけ戴きましたので、本講演をお引き受けした次第です。演者本人は、“定年記念講演を行う機会を与えて下さった”と感謝しております。

さて、表題の「日本鶏」は、文字通り「日本国でつくられたニワトリ品種」を指します。その起源は少なくとも弥生時代後期まで遡ることができます。世間にはほとんど知られていないと思いますが、日本鶏には現在約45の品種が存在します。一方、世界には、その日本鶏も含めて、少なくとも見積もって約250、多く見積もって約450（世界は広いのもっといえるかも知れませんが）のニワトリ品種が存在します。すなわち、日本鶏品種の数は世界のニワトリ品種数の約10～20%を占めています。みなさま、この割合、凄いと思われませんか、日本国が地球上に占める国土の狭さを考えた場合。

日本鶏品種のほとんどは、世界的にも珍しく観賞用に育種がなされています。観賞用ゆえに、その形態や性質が珍しいため、多くの品種（15品種と2グループ）が国の天然記念物に指定されています。形態や性質が特異的であるということは、日本鶏は突然変異遺伝子（遺伝子資源）の宝庫であると言えます。ということは、日本鶏は研究材料として優れているということです。日本鶏品種のほとんどは観賞用であるが故に、卵肉の生産性に関する改良はなされていませんが、日本鶏品種の卵肉は全般的に極めて美味です。すなわち、日本鶏品種は、将来、優れた肉用鶏や卵用鶏を新たに開発するための素材としての可能性を秘めています。また、天然記念物に指定されていない品種は食資源として直接的に利用することも可能です。

本講演では、日本鶏品種を紹介すると共に、その成立過程ならびに研究材料および食資源としての可能性についてもお話しします。また、演者がセンター長を務めております、広島大学・日本鶏資源開発プロジェクト研究センター（Japanese Avian Bioresource Project Research Center: 略称 JAB）において、近年、日本鶏品種を元にして作出した肉用鶏である「廣大鶏（ひろだいでり）」についても紹介致します。

尚、このセンターでは、時期により数に多寡はありますが、常時30を越す日本鶏品種ならびに複数の著名外国鶏品種を生体として飼育・保存しています。さらに、ウズラおよびヒメウズラについても突然変異系統の保存を行っています。また、ニワトリ、ウズラ類とも、生体のみならず血液あるいはDNAの保存も行い、共同研究を希望される方には随時分与も行っています。